

冷たい冬の三日月の
光をうつす流れ雲
背に負う母と

今こそはこの世の別れ

子なればこそ

恩愛の涙にむせび

すすり泣く心も哀れ

母とよべど

答えも聞けず

足どり重く楢山へ



各映画賞を独占！

〔昭和三十三年皮作品〕

- 毎日映画コンクール日本映画賞
- 毎日映画コンクール監督賞
- 毎日映画コンクール音楽賞
- キネマ旬報ベストテン第1位
- キネマ旬報監督賞
- キネマ旬報女優賞
- ブルーボン賞ベストテン第2位
- NHK映画ベストテン第1位
- NHK映画監督賞
- 映画の友ベストテン第1位
- ホワイトブロンズ賞第1位
- 日本映画技術撮影賞
- 日本映画技術録音賞
- コーク映画祭最優秀男優演技賞
- 優秀映画鑑賞会推薦

松竹映画



巨匠木下恵介脚本監督 映画史上不滅の感動大作！

《カラー作品》

おぼすて 姨捨山の伝説を彩る美しい親子の真情！

なら

やま

おこ

うら

楢山節考

原作／深沢七郎

中央公論社版

撮影色彩技術／楠田浩之

美術／伊藤嘉朗・梅田千代夫

音楽／杵屋六左衛門・野沢松之輔

製作／小椋正治

田中絹代
高橋貞二
望月優子
市川団子
東野英治郎
三津田健
宮口精二
伊藤雄之助

《カラー作品》

榎山節考

木下恵介が幻想と様式美で描く

悲しみの「姨捨て」伝説！

「榎山節考」は、昭和三十三年、木下恵介の円熟期ともいえる時期に製作された作品である。この年「榎山節考」はほとんど全ての映画賞を独占受賞している。オール・セットにて撮影され、総セット数は四十をこえている。歌舞伎の舞台を観るような早変りと、三味線の伴奏による長唄、義太夫の映画音楽という大胆な手法が用いられ、悲しい民話を幻想的に彩どっている。その演出法は、今日においても十分すぎるほど斬新である。

物語は、日本の古い民話の中でも哀切をきわめる棄老伝説「姨捨（おばすて）山」の伝承を中心に、日本人固有の貧しく厳しい生活感情を象徴的に描いたもので、信州の山深い寒村を舞台に、善良で六十九才という歳になっても、なお体の丈夫な老婆おりんが、孫のけさ吉に押しかけ女房が来て、曾孫が生まれることになったのを機に、土地のならわし……：ここでは極度の食糧不足から口減らしの方法として七十才になると姨捨山に榎山に登る風習があった……：に身をゆだね、息子の辰平をせきたて、村の者達に振舞酒をした後、雪の降る日に辰平に背負われ、神の住むという榎山の奥深くに捨てられていくという悲惨な話であり、この悲情無残な哀別離苦の人生詩に、木下恵介は幻想的な中にリアルな光彩をひらめかせている。

出演者は、主役のおりんに今は亡き田中絹代が扮しているのを始め、息子辰平に高橋貞二、嫁に望月優子他、東野英治郎、三津田健、宮口精二、伊藤雄之助、西村晃等、演技派俳優のオールスターといった観がある。

尚製作スタッフは、当時の木下組のベスト・スタッフで、撮影は木下監督との名コンビを謳われる楠田浩之キメラマンが、初のグランドスコープ・フジカラー作品に意欲を燃やしている他、録音・大野久男、照明・豊島良三、編集・杉原よし、製作・小椋正治等のベテランメンバーがそれぞれ担当している。加えて異彩の舞台装置、美術には、その斯界の権威伊藤熹朔が、又邦楽による異色の音楽構成には毎日演劇賞受賞の邦楽界の権威杵屋六左衛門が長唄を、文楽の第一人者野沢松之輔が義太夫、三味線をそれぞれ作曲構成している。

松竹映画

上映時間1時間38分

スタッフ

監督……木下恵介
脚本……"
原作……深沢七郎
撮影……楠田浩之
色彩技術……伊藤熹朔
美術……梅田千代夫

音楽……義太夫・三味線
野沢松之輔

録音……大野久男
豊島良三

照明……杉原よし

編集……

キャスト

おりん……田中絹代
辰平……高橋貞二
玉さん……望月優子
けさ吉……市川団子
松やん……小笠原慶子
玉やんの兄……東野英治郎
又やん……宮口精二
又やんの倅……伊藤雄之助
雨屋……鬼笑介
焼松……高木信夫
挨拶する客……三津田健
織田政雄
小林十九二
西村晃
末永功
本橋和子

●6月12日全公開 特別ご鑑賞券 一般1200円 (当日1500円の処) 絶賛前売中!
学生(大・高・中) 1100円 (当日1300円の処)

■上映時間
連日 11:10 1:00 3:00 5:00 7:00

丸の内松竹 (201) 3720
国電有楽町・地下鉄銀座下車

新宿京王地下 (356) 3518
伊勢丹斜め向・三越ならび